

展示期間：令和4年8月17日～令和5年1月4日

青花とは

白色の素地に酸化コバルトの顔料で文様を描き、ガラス質の透明な釉をかけて焼いた陶磁器です。顔料は元々黒色か茶色を呈していますが、焼成することによって綺麗な青色に発色します。このような技術を「染付」と言い、なかでも中国で焼かれたものは「青花」と呼ばれています。

中国では元時代（14世紀）より生産が活発になり、多くの優品が海外へ輸出されました。

今回の展示では、堺環濠都市遺跡より出土した青花をご覧ください。

青花鳳凰文盤



中央に一羽の鳳凰を描き、その周囲に草花を散りばめています。この盤は漳州窯系であると考えられます。

SKT448-2（堺区戎之町東1丁）の調査では、現在と同方向の主軸を持つ町並を検出しており、塙列建物の内部から備前焼や青花など、多くの陶磁器が出土しました。この盤はSB19から出土しています。

SKT448-2 地点(堺区戎之町東1丁)出土

16世紀後半～17世紀初頭

堺市文化財課所蔵

青花牡丹唐草文碗



外側に牡丹唐草文を施し、内側に牡丹を配した碗です。景德鎮窯系であると考えられます。

SKT772 地点（堺区中之町西 3 丁）の調査では、16 世紀前半～17 世紀初頭の町屋跡を検出しました。そのほかにも、大坂夏の陣で被災した塙列建物が良好に残っており、その中から青花を含む大量の陶磁器が出土しました。

SKT772 地点(堺区中之町西 3 丁)出土

16 世紀後半～16 世紀末

堺市文化財課所蔵

青花官人文皿



中央に官人を描いた皿で、官人の後ろには鹿の顔がのぞいています。青花牡丹唐草文碗と同じく、景德鎮窯系であると考えられます。光沢のある白地と、はっきりと発色した青色が特徴です。

SKT6 地点(堺区大町西 2 丁)出土

16 世紀後半～16 世紀末
堺市文化財課所蔵